

## 令和5年度第3回子ども・子育て会議 会議録

### 日時

令和5年8月23日（水）午前10時から正午まで

### 場所

流山市中央公民館3階第1会議室

### 出席委員

村上 涼会長、田中 由実副会長、設楽 早百合委員、藤本 裕司委員、上橋 泉委員、藤本 喜代美委員、藪本 敦弘委員、堰塚 裕一委員、長谷部 敬子委員、矢部 ひとみ委員、蛭原 正貴委員、小澤 孝江委員

### 欠席委員

若松 文委員、森下 温子委員

### 傍聴者

なし

### 事務局

竹中子ども家庭部長、小谷子ども家庭課長、加藤子ども家庭課虐待・DV防止対策室長、遠藤保育課長、宮澤健康福祉部次長兼障害者支援課長、平尾児童発達支援センター所長、岸川健康増進課長補佐、小谷子ども家庭課子ども政策室長、廣原子ども家庭課主査、加藤子ども家庭課主任主事、北根子ども家庭課主事

### 議題

- (1) 「流山市こども計画」（仮称）の策定に係る諮問について
- (2) 「流山市こども計画」（仮称）の策定に係る進め方の検討について
- (3) 「流山市こどもの生活状況に関する実態調査」に係る調査項目の検討について
- (4) その他

## 配付資料

- 資料 1 「流山市こども計画」(仮称)の策定に係る進め方の検討について
- 資料 2 「流山市こどもの生活状況に関する実態調査」に係る調査項目の検討について
- 別紙 1 流山市こどもの生活状況に関する実態調査【小学生票】
- 別紙 2 流山市こどもの生活状況に関する実態調査【中学生票】
- 別紙 3 流山市こどもの生活状況に関する実態調査【保護者票】
- 別紙 4 流山市こどもの生活状況に関する実態調査 小学生票・中学生票(共通)
- 別紙 5 流山市こどもの生活状況に関する実態調査 保護者票
- 参考資料 今後の子ども・子育て会議のスケジュール(改訂)

## 議事録《概要》

### 《村上会長》

定刻となりましたので、第3回流山市子ども・子育て会議を開催します。

初めに、本日の出席を御報告します。ただ今のところ出席委員11名、欠席委員3名であります。よって定足数に達しておりますので、会議は成立していることを御報告します。

それでは、議事に入ります。はじめに、議題の(1)『「流山市こども計画」(仮称)の策定に係る諮問について』です。それでは、小谷課長、お願いします。

### 《小谷子ども家庭課長》

流山市こども計画(仮称)の策定について、本来でありましたら、井崎市長から諮問をさせていただくところですが、公務の都合上、本会議への出席ができませんので、竹中子ども家庭部長から諮問させていただきます。

## 【諮問書の交付】

### 《村上会長》

ありがとうございました。議題の(1)については以上とします。

次に、議題の(2)「「流山市こども計画」(仮称)の策定に係る進め方の検討について」です。それでは、事務局から資料1に沿って、説明をお願いします。

《事務局》

資料1 「流山市こども計画」(仮称)の策定に係る進め方の検討について 説明

《村上会長》

以上で、事務局からの説明は終わりました。本日の検討に当たっては、こども・若者の意見聴取や実態調査の内容について、資料1の(1)から(3)を順番に分けて、議論したいと思います。それでは、初めに、資料1の2ページ上段の(1)こども・若者からの意見募集について、ご意見等をお願いします。

まずは、募集対象者についてご意見いかがでしょうか。

《矢部委員》

対象者について、若者はこどもがいるかどうかによって考え方が変わるとは思います。すが取扱いはどうされるのでしょうか。

《小谷子ども家庭課子ども政策室長》

こどもがいるかどうかに関わらず募集します。

《上橋委員》

こうした調査はそもそも反応があるのでしょうか。過去に実施したニーズ調査ではどうでしたか。

《小谷子ども家庭課子ども政策室長》

第二期こどもをみんなで育む計画の策定時に実施したニーズ調査では、就学前の子どもの保護者に対しては、配布数2,000件、回収数1,334件、回収率66.7%という結果になりました。小学生の保護者に対しては、配布数1,000件、回収数659件、回収率65.9%となりました。

今年度の各種調査においても、周知を行い、高い回収率となるよう努めてまいります。

《上橋委員》

世論調査などは2,000件回答があれば正確であると聞きますので、回答率が60%であるなら正確であると思います。

《藪本委員》

対象者を中学生以上とした理由はあるのでしょうか。小学生も含めてはどうでしょうか。

《小谷子ども家庭課子ども政策室長》

小学校高学年を含めて対象年齢を拡大することを検討します。

《村上会長》

小学校高学年を対象者とするについて、各委員いかがでしょうか。

【異議なしの声】

《村上会長》

小学校高学年を対象者として含めることといたします。続いて募集テーマの提案内容については、ご意見いかがでしょうか。

《藪本委員》

募集テーマの（１）から（４）を含めた内容でどれだけの人が応募できるのでしょうか。小学生を対象に含めるならばこの内容を網羅することは大変です。また、（４）のメリットがないと提案できないのでしょうか。今困っていることや要望を伝えるという面ではメリットの項目を無くしたほうが集まりやすいと思います。

《村上会長》

誰にとってのメリットなのかが難しいと思いますので、表現を変えてはいかがでしょう。

《田中副会長》

子どもの権利条約における意見の表明の視点から、イラスト等による言葉によらない意見や表現も募集対象に含めてはどうでしょうか。

周知方法については、例えば市長が出演するPR動画を作成し、その動画を学校で配付されているタブレットなどで見ることはどうでしょうか。

また、募集意見をどのようにフィードバックするのか検討したほうがいいと思います。

《上橋委員》

募集テーマについて、中学生以上であれば内容を網羅できると思いますし、政策

に反映しやすいと思いますので、事務局提案のままでいいのではないのでしょうか。

《堰塚委員》

募集テーマについて、内容を誘導しないような提案例を示した上で募集したほうが応募しやすいと思います。

《村上会長》

先ほど田中副会長よりイラスト等による応募について提案いただきましたが、最近の流れとして音声による投稿が増えています。録音ファイルによる応募も一手だと思います。

《矢部委員》

意見募集のツイッターアカウントを開設して、そちらに動画を投稿する手法はどうでしょうか。以前テレビ番組で、番組出演をする視聴者を募集する際にそうした形で実施していました。

《藪本委員》

学校の授業の一環として子どもの権利条約の教育があるのであれば、その授業の中で周知してはどうでしょうか。

《長谷部委員》

授業の対象学年と実施時期について把握しておりませんので、この場で回答はできませんが、SNSでの回答となると家庭での動きになってしまうと思います。

《蛭原委員》

募集方法として、こどもの生活状況に関する実態調査のように、学校で意見を回収する方法を検討してはいかがでしょうか。

《小谷子ども家庭課子ども政策室長》

意見を募集するものですので、実態調査とは目的が異なります。学校では周知チラシの配付を予定しています。

《蛭原委員》

回収率をどの程度設定しているかによりますが、学校で配付して回収する形であ

れば回収率が上がるのではないのでしょうか。18歳以上であれば、イベント等で実施して回収する方法はどうでしょうか。

《上橋委員》

実態調査と意見は異なりますので、実態調査の方の有効性を高めて計画に反映させた方がいいと思います。

《村上会長》

周知方法について、中学校に対してはチラシを配付する予定ですが、高校はポスター掲示を予定しています。高校生に対するアプローチの方法についてはご意見いかがでしょうか。

《蛭原委員》

例えばイベントで周知のみを行うと、よかったら回答してくださいとなってしまいますので、イベントのブースで回答してもらって、回答者に景品を用意するような形で、回答から回収までの一連の流れができるようにしてはどうでしょうか。

《小谷子ども家庭課子ども政策室長》

市民まつりでの出店を予定していますが、来場者が非常に多いイベントですのでブースで回答してもらうことは難しい面があります。工夫をしてその場で意見を募集できるような方法を検討したいと思います。

《村上会長》

回答者に対して景品があると回答数が増えると思いますが、どうでしょうか。

《小谷子ども家庭課子ども政策室長》

景品については、予算上難しい面があります。

《田中副会長》

以前子育てネットで、セントラルパークフェスタに出店した際に、模造紙に意見を書いた付箋を貼る手法で実施したことがあります。市民まつりでもそうした手法の方がやりやすいのではないのでしょうか。

《小谷子ども家庭課子ども政策室長》

セントラルパークフェスタで実施したような付箋を活用した手法も含めて検討したいと思います。

《長谷部委員》

付箋で一言意見を貼ってもらう方が子どもたちも意見を言いやすく、そうした手法の方が子どもたちの素朴な意見が出ると思います。

《村上会長》

若者の年齢が18歳以上29歳以下となっていますが、そちらについてはいかがでしょうか。

【異議なしの声】

《村上会長》

(1) 子ども・若者からの意見募集については以上といたします。

(2) 流山市子ども会議についてはご意見いかがでしょうか。まず、対象年齢に小学生が含まれていませんが、こちらについてはどうでしょうか。

《長谷部委員》

小学生や中学生は、保護者の同意が得られた上で、会議会場への移動時の安全が確保できるのであれば参加は問題ないと思います。

《村上会長》

会議のグループ分けの際に小学生はどのように振り分けたほうがよいでしょうか。

《小澤委員》

小学生は中学生以上のこどもの難しい言葉の表現に戸惑ってしまう可能性があるため、小学生とそれをサポートする大学生のグループ、中学生と高校生のグループのように分けてはどうでしょうか。

《村上会長》

小学生も対象に含めることについては異論がないということでよろしいでしょうか。

【異議なしの声】

《村上会長》

小学生は、意見を反映するための工夫をした上で対象に含めることといたします。この他はいかがでしょうか。

《堰塚委員》

大学生のサポーターの募集方法について教えてください。また、市内の学童クラブでは、夏休み期間中に市内在住、在学の大学生をボランティアとして受け入れています。そうした学生たちの活力を生かす形で実施してはどうでしょうか。

《小谷子ども家庭課子ども政策室長》

こども委員の募集と併せて大学生サポーターの募集を実施する予定です。

《竹中子ども家庭部長》

堰塚委員に質問ですが、大学生サポーターの募集にあたって市内、近隣市の大学に周知を図る予定ですが、学童クラブの大学生ボランティアはどのように募集を行って、どのような学生が参加しているのでしょうか。場合によってはボランティアに参加してくれる大学生にアプローチするという方法も考えられます。

《堰塚委員》

私が所属する法人における募集にあたってはインターネットに求人広告を掲載しています。江戸川大学や各種専門学校の学生が参加しており、こうした分野に関心がある学生が多いため声をかけることはできると思います。

《小澤委員》

大学生が会議のファシリテーターをすることについて、なかなか難しい面があると思いますがどうでしょうか。

《小谷子ども家庭課子ども政策室長》

事前に説明会を実施しサポートを行います。

《藤本（裕）委員》

この会議は外部に公開するのでしょうか。例えば虐待などのテーマが出た際に親を気にして発言したくないというケースが出てくると思います。



《小谷子ども家庭課子ども政策室長》

こどもたち自身が自由に意見を言うことができる会議を設定したいと考えておりますので、実施方法については検討いたします。

《田中副会長》

想定よりも多くの委員の応募がある場合にはどのように決定するのでしょうか。

《小谷子ども家庭課子ども政策室長》

多数の応募がある際の委員の選定方法は、今後検討いたします。

《藪本委員》

会議テーマは、会議ごとに異なるものをこどもたちが設定するのでしょうか。

《小谷子ども家庭課子ども政策室長》

1回目の会議にグループ単位でこどもたちがテーマを設定し、その内容についてその会議以降も連続して議論することを想定しています。

《村上会長》

会議の途中でテーマを変更できるようにしたほうが話しやすいと思います。

《竹中子ども家庭部長》

柔軟に対応します。

《田中副会長》

会議委員の募集にあたって、多様性についてどのように考えていますか。

《小谷子ども家庭課子ども政策室長》

今後検討いたします。

《村上会長》

委員の人数上限を設定いただいたほうがいいと思います。

このほかにご意見ないようでしたら次の議題に進みます。

【特になしの声】

《村上会長》

次に、(3) アンケート調査と関連する内容が含まれていますので、議題3「流山市こどもの生活状況に関する実態調査」に係る調査項目の検討について、事務局から説明をお願いします。

《事務局》

資料2 「流山市こどもの生活状況に関する実態調査」に係る調査項目の検討について 説明

《村上会長》

まず、資料1 (3) アンケート調査の実施方法についてご意見等いかがでしょうか。

《設楽委員》

ニーズ調査について、対象者が無作為抽出となっており、障害や病気を持っているこどもの家庭がどれだけ抽出されるのか分かりません。抽出されずにそうした方の意見が反映されないことを避けるため、対象層を細かく分けるなど対応して欲しいと思います。

《小谷子ども家庭課子ども政策室長》

ニーズ調査の詳しい実施内容については現時点で国から方針が示されていないため、今後内容を詰めていくほか、ニーズ調査とは別の手法でそうした方々の意見を拾い上げるなど検討を行っていきたいと思います。

《上橋委員》

親への不信感を持っているこどもは、家庭ではなく学校での回答ができるようにしてはどうでしょうか。

《藪本委員》

調査はマイノリティに配慮して丁寧に実施したほうがいいと思います。こどもの生活状況に関する実態調査は学校で配付して回収するようですが、その場合、不登校児童への対応を検討したほうがいいと思います。

### 《長谷部委員》

保護者の調査票の設問には世帯の収入などプライベートな内容も含まれているため、こどもを通じて学校で回収となると学校側としては、怖い面もあると感じています。回収方法については検討が必要であると思います。

### 《蛭原委員》

学校の授業中に実施することは出来ないのでしょうか。

### 《小谷子ども家庭課子ども政策室長》

調査票の内容上、授業での実施は難しいと考えています。

### 《蛭原委員》

家庭で回答をしたものを封筒に封をして回収することと、学校の授業で回収することは厳密性の面から違いは少ないと思います。担任の先生の負担は増えますが、回収率の上昇につながると思います。

### 《矢部委員》

こどもの調査票の設問に、家族のお世話をしているかについて追加されていますが、日常적으로お世話をしているこどもは、それが当たり前で、この調査がきっかけで気づくのではないのでしょうか。他の設問に相談窓口の連絡先が掲載されていますが、お世話をしているこどもの相談などの受け皿を事前に用意したほうが良いと思います。

### 《村上会長》

こどもたちに対して、どのような目的で実施するのか、どのような相談先があるのかを事前に説明したうえで、調査を実施したほうが良いと思います。

回収方法について、不登校や家庭での回答がしにくいこどもに対応できるように、学校での回収のみではなく、郵送での回収ができるように柔軟に対応を検討してはどうでしょうか。

### 《藪本委員》

回収率を上げるという面では学校での回答が良いと思いますが、このアンケートを回答することで傷ついたり、回答することに対して拒否反応があったりと難しいと感じています。どの程度の回収率であれば有意なデータとなるのか、回収方法ご

との回収率がどの程度となるのか、そのあたりどうなのでしょう。

《竹中子ども家庭部長》

市川市の調査では学校配付、学校回収の方式で実施しており、回収率が小学生94.2%、中学生が88.2%、保護者が88.0%となっています。先ほど村上会長が発言していた学校回収と郵送回収を併用する形での実施は可能であると思いますので、ある程度高い回収率を目指して実施を検討いたします。

《蛭原委員》

家庭に持ち帰って回答する場合、こどもの回答に保護者が口を出すようなことはあるのでしょうか。生活状況に関する調査ですと、家での回答がしにくい場合があります。

《藤本（裕）委員》

こどもの回答については、極力保護者の目に入らない形で回答する方が望ましいと思います。

《田中副会長》

こどもの回答の安全性の面では、学校で配付されているタブレットでの回答が一番確実ではないかと思います。

《長谷部委員》

タブレット上でアンケートに回答することはあります。今回のような調査については、どのような方法がよいのか慎重に検討する必要があると思います。

《藪本委員》

信頼性と安全性という面では、学校での実施が一番いいと思います。

《村上会長》

ありがとうございました。終了時刻となりましたので、議論を区切らせていただきます。こどもの生活状況に関する実態調査については、後日意見シートで設問に関する意見を回答いただくほか、調査の実施方法については、安全性等の面から手法を再度検討いただく必要があると思います。

最後に、議題4のその他について事務局からお願いします。

《事務局》

次回の第4回会議は、10月12日の14時から開催いたします。また、第5回会議は12月を予定しており、再度日程調整させていただきます。

《村上会長》

それでは、次回、第4回の会議は、実態調査の項目検討が主なものになりますので、御出席のほど、重ねてお願い申し上げます。

それでは、以上をもちまして、令和5年度第3回流山市子ども・子育て会議を閉会します。お疲れ様でした。

以上